2550

宇都宮ロータリークラブ会報

『友達になろう』
BE A FRIEND

“友達になるのも出席から”
会長　宮崎　柏／幹事　前田正典

R.I.会長　ビル・ハントレー　／　第2550地区ガバナー　片柳定夫

■例会日　金曜日12時30分より　■例会場　宇都宮ロイヤルホテル　宇都宮市江野町11-16
■事務所　宇都宮ロイヤルホテル5階530号室　TEL 0286-32-0530　FAX 0286-32-0530

No.2167回　6月2日（1995）
1994～1995年度（第44回会報）

会　員　144人　　出席者　99人
欠席者　45人　　出席率　90%
M　U　4人
宮崎　柏、市川秀夫、榎　啓一、新井祥夫

ビジター紹介（石下親睦活動委員長）
伊藤幸枝（秋田港）、奈良昌治（足利）、阿部昭夫（真岡）、高田光子（宇都宮'90）、堀井　毅（宇都宮東）、張　偉（留学生）、吉田義子（ゲストスピーカー）

新入会員紹介

佐々木光俊(ささき みつとし)
昭和20年2月20日生
㈲福田屋呉服店社長
宇都宮市大通り1-1-19
家族　母、妻、一男、一女
趣味　海外旅行、ゴルフ、酒

鱒渕弘一(ますぶち ひろいち)
昭和16年8月2日生
宇都宮市大曽2-7-22
㈱大丸製菓　社長
家族　妻、一男
趣味　ゴルフ、海外旅行、麻雀、酒

6月誕生祝
還暦　松村光雄、助川通泰　以上2名
新井祥夫、植木啓之、木村波二、斉藤忠美、長瀬正之、宮田初男、宮本隆昌、柳田　孝、天目純生、福田七右衛門
（高橋久恵）、（大野靖子）

6月結婚祝
新井祥夫、金沢　力

報告事項

ロータリー財団（新井委員長）
田口さんからベネファクターに。
11/10と11/11に1万円づつ銀行に振りこみされた方の名前が分らないのでお知らせします。不明の場合は、ニコニコボックスに寄付させて戴きます。
手塚先生から俳句の会についてお礼。
松井さんから
かつて当クラブ財団奨学生の酒井千春さんが、明後日、午前9:00～9:30テレビ朝日に出演します。ごらん下さい。

ニコニコボックス（小堀委員長）
石下会員…俳句の会の終了で親睦活動委員会の全事業が終りました。ありがとう。
青木益治会員…俳句会で図らずも優秀賞を。
誕生祝、結婚祝は前記の通り。
栗田　正会員（野村証券㈱宇都宮支店長）退会お礼
大変お世話になりました。伝統あるロータリークラブの皆様にご教授いただきましたことを転勤地であります本社で活かして参りたいと思います。
貴クラブのますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

卓話予定

6月9日　「米国でのロータリアンとしての思い出」　山田義雄会員
6月16日　「マーチングバンドを楽しむ」　宮本隆昌会員
6月23日　「一年間を顧みて」　職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、親睦活動奉仕各委員長
6月30日　「一年を顧みて」　会長、副会長、幹事

会報委員　北村　光弘　会員
写　真　長谷川　正　会員

卓話　「香を楽しむ」　吉田　義子

今日はこんな素敵な所にお呼びしていただいて光栄に思います。私はお香の勉強をしておりますので、香の伝来と私達が香道具を使いお作法に従って、お香を焚き楽しむまでの流れをお話ししたと思います。

香り、匂いとは何かと申しますと、私達の生活の中には匂いというものが役立っていると思います。美しい香りは心の奥まで染み渡り、怪しい匂いは身も心も溶かしてしまいます。花の香りは花の色と共に、蝶や虫を呼び寄せ花粉を運ばせ受粉する、という繁殖が目的であることは知られております。又、動物の匂いは麝香（じゃこう）に代表されるように、異性の性欲本能を刺激するためのもので、我々人間の場合も同様で色香に迷うというような理性を失わせる程の魅力があります。女性の体にはヘロモンを分泌する周期があって、ヘロモンの質は周期を通して変化し排卵時期の匂いに男性は最も引きつけられると言われます。女性の感受性も同様に上昇したり下降したりするそうです。ところが植物の中でも樹木の香り樹脂の香りは、樹木の防腐殺菌作用や虫の害を防ぐ働きがあります。古代エジプトでミイラを作っていたのも樹脂の一種です。古代人は神仏の前で樹脂を多く含んだ香り高い木を焚くことによって敬虔な気持ちになることを発見しました。中国や日本で香を焚き香を嗅ぐことを「聞香」といいます。これは香を焚きながら天帝に祈りを捧げれば、立ち昇る香煙にのって願いを聞き届けてもらうことができるという語源です。わが国の香りの文化は飛鳥、奈良時代仏教と共に供え香として中国から紹介されたのが始まりです。仏教では体に塗って身を清める塗香、又、吐く息をさわやかにする含香、真言密教で儀式に使う香水等があります。お線香はその歴史は大変古く、わが国へは４百年程前の天平年間に中国から製法が伝えられました。昔のお料理屋さんではお客様をお迎えする準備として、お座敷にお香を焚き込めてお待ちしていたので、そのように利用されたそうです。又、お部屋の中をいつも心良い香りを漂わせておくために、柱や壁にかけておく懸け香を香嚢といい、携帯して歩く時の袖ごうろ（今の匂い袋）、徳川時代にこれを持たない女性はないと言われていたそうです。髪の中に心良い香りを滲ませておくための香枕、きゃら枕と呼ばれた箱枕もありました。

香木が初めて日本に来た時の伝説として、日本書記第22の所に推古天皇３年西暦595年夏、淡路島へ漂着した大木を土地の漁民が燃したところ百里四方に何とも言えぬ良い香りが漂い、驚いた漁民達が貢ぎ物として朝廷に捧げたそうです。聖徳太子はこれを見て、これは南天竺（今のミャンマー）に生ずる栴檀という香木であろう。自分はかねて栴檀という香木を手に入れてみ仏の像を刻みたいと願っていた、と百済工に命じて、その香木で観世音菩薩の尊像を刻み、法隆寺の夢殿に祭ったと言われております。像を刻んだ余材を焚いて供養したと言われております。その時の彫刻の余材が正倉院の御物の中に太子という名の香木で２本あるそうです。１本は目測して２尺、直径２寸５分、他の１本も同じ位で焦げているように見えるそうです。聖武天皇の時に東大寺大仏が建立され、三韓（古代朝鮮、新羅、百済）から香木を取り寄せて東大寺の正倉院に納めたと言われております。太子や東大寺を初め以後、現在に至るまで日本に渡来した香木の数量は莫大で古来の文献に現れている香の名だけでも1,800種を越えていると言われております。この他に焚き物があります。ここに焚き物とお写真を持ってきて後で皆さんに見ていただこうと置いてあります。この焚き物は鑑真和尚がわが国に初めて持ってきました。それを日本人の感性に合わせだんだん改良されて六種の薫物のような素晴らしい薫物が出来ました。この焚き物は印香、数種類の香料の粉末に蘇密（蜂密を採集した時の副産物）、梅肉、甘葛、ふのり、すみ、塩等を練り合わせて丸薬状にして作られます。こういう処方が公開され、やがて香道と呼ばれる日本独特の芸道が成立しました。香道とは供香、空香（空焚きのこと）、玩香の三つに分けられます。供香とは献香、神仏や祖先の霊に香を供えることで香道の中では、特に荘厳な儀式作用で行われます。空香は式場や招待客の招待のお席に華美をきわめようと、お座敷に香を焚き込める習慣です。玩香とは芸から動に入る訓練過程で一炷聞き、一つだけ香を焚いて聞くもの。香合わせ焚き物合わせ組香。組香とは香道の中の作法で争って香りをあてて競いあう遊びです。私の流派は香道直心流です。皆さんのお手元にあります、六国五味と書いたものがありますが、伽羅、羅国、真那賀、真那蛮、佐曽羅、寸門多羅は全部港の名前です。香の十徳と申しまして、一休禅師が申されたと伝えられております。鬼神を官能させ心身を正常にし、毒を除き睡気をさまし一人居には友となり、忙中に閑をとらせ、多く使っても少々でもそれぞれの用を満たす。長く保存してもくちず、常用してもさしつかえないと申されております。以上で流れはお話しいたしました。此のあと実際にお香を聞きながらご指導申し上げます。